

慶長十四年十二月十九日夢想連歌 紹介と翻刻

中村 健史

NAKAMURA Takeshi

神戸学院大学人文学部

三原 尚子

MIHARA Naoko

京都精華大学国際文化学部

要旨 新たに本学の蔵するところとなった「慶長十四年十二月十九日夢想連歌」（二六〇九年張行）の紹介・翻刻を行う。

キーワード 連歌、夢想連歌、近衛信尹、勢誉

1

新たに本学の蔵するところとなった「慶長十四年十二月十九日夢想連歌」（二六〇九年張行）を翻刻する。

卷子装一軸。二重箱入り。浅黄色地金模様入り緞子表紙。見返し金箔。本紙縦一八・四×全長四二五・〇cm。外題なし。内箱、外箱ともに「近衛殿信尹公／懷紙 式拾一番」の箱書きあり。楮紙打曇料紙八紙を継ぐ。連歌懷紙を改装したものと思しい。虫損はほとんど見られないが、名残裏の一

部に擦れあり。一句二行書き。奥書、識語のたぐいはない。『連歌総目録』未収。なお句上には「経昌 八」「紹由 八」とするが、実際の出句数は経昌五、紹由十一である。

発句は「さえて月うき世をわたるならひ哉」。「御」とあるのは夢想句の意であろう。月はさえずえと輝きながらこのつらい世の中を渡ってゆくならいだ、というのは『新古今集』釈教に見える寂超の法文歌「雲晴れてむなしき空に澄みながら憂き世の中をめぐる月かな」（一九五二）を意識するか。「うき世」は濁世、「月」は神または仏を指すものと読みたい。季は冬（「さえて」）。切字は「哉」。

脇は「暮る冬田になびく雁が音」。月がのぼる前には、暮れかかる冬田に雁の鳴く音がひびく、と展開した。「なびく」は「雲晴れて雁が音なびく外山かな」（明応五年八月二十二日賦何人連歌^一）の句が示すように、風によって雁の声がかたより、乱れるさまを言う。季は冬。なお作者名を記さないのは夢想句であることをあらわすか。ただし、句上には「御一」とあって、発句と脇では作者が異なるという判断を示す。

第三は「真帆ひきし舟を湊にこぎよせて」。夕暮れのころ、船は帆いっぱい風をはらんで港に入る。一夜の宿りを求めるのである。「真帆」は『日葡辞書』に「例、Matode faxinu.（真帆で走る）船尾の方から、帆の左右両端の間に吹く風によって、船が走る」と説明される。「明日の道まで旅や急がん／追風を真帆に引きかけ行く舟に」（宗長「壁草」）。雑の句。作者（一字名「杉」）は近衛信尹（一五六五—一六一四年）。三藐院と号す。父は近衛前久。従一位左大臣にのぼるが、勅勘によって薩摩坊津に配流。慶長元年に帰洛してのち関白氏長者にいたった。和歌、書、茶をよくしたことでも有名。

以下、作者について略記する。

「実顕朝臣」とあるのは阿野実顕（一五八一—一六四五年）。父は阿野実時。官位は正二位権大納言にいたる。細川幽斎らに師事して和歌を学び、書もよくした。

「時直朝臣」とあるのは西洞院時直（一五八四—一六三六年）。父は西洞院時慶。官位は従二位参議にいたる。

「勢与」とあるのは文殊院勢与（一五四九—一六二二年）。真言僧。高野山貫主、青巖寺、興山寺などの住持を務めた。徳川家康から庇護を受けたことで知られる。

「経昌」「圭種」は不詳。

「昌儼」とあるのは里村昌儼（一六〇二？—一六六五年）か。父は里村昌叱。位は法眼にいたる。各種辞典類には生年を慶長七年とするが、「慶長十四年（一六〇九）頃から連歌作品に多く名を連ねている」（『日本古典文学大辞典』）ことから疑問が残る。

「玄陳」とあるのは里村玄陳（一五九一—一六六五年）。父は里村玄仍。位は法眼にいたる。連歌のほか絵もよくした。

「慶純」とあるのは中村慶純（生没年不詳）。橘屋とも号した町衆。紹巴に学んで連歌をよくした。

「紹由」とあるのは佐野紹由（？—一六二二年）。灰屋とも号した町衆。紹巴に学んで連歌をよくした。

「了俱」とあるのは石井了俱（生没年不詳）。仙台藩に仕えた連歌師。里村昌叱門。

「宗岩」「貞里」は不詳。「貞里」は執筆であろう。

なお、百韻を通して読んでみると、「冬はいつしかた、ちとかへなく」（42句）、「朝ぼらけ霧をしたなる淡路島」（75句）、「小車つらふみちの長閑けさ」（78句）のようにいささか意を通じがたい箇所が見受けられる。このうち75句は「の（能）」を「を（越）」に誤ったもの、78句は「つらぬ」あるいは「つどふ」「ならぶ」の書きまちがいと考えるのが自然であろう。

翻刻にあたっては句に通し番号を附した。また、漢字の字体は現在通行のものに統一し、わたくしに濁点をほどこす。「一」内は摩滅した文字の推測である。

解題と端作から50句までの翻刻は中村が、51句から句上までの翻刻は三原が担当した。また、一部深沢眞二氏の示教によって誤りを正した箇所がある。記してあつく学恩を謝す。

この研究はJSPS科研費23H00609の助成による。

*

慶長十四年十二月十九日

夢想之連歌

- 1 さえて月うき世をわたるならひ哉
- 2 暮る冬田になびく雁が音
- 3 真帆ひきし舟を湊にこぎよせて
- 4 ふきすさびぬるすゑの川風
- 5 ゆふだちの雲やたかねに残るらん
- 6 つゞく木かげのみちは涼しも
- 7 けふことにふかみどりそふ小松原
- 8 つくるみぎりのうちひろきやど
- 9 声ぐに墻ほの鳥の鳴かはし
- 10 あぐる外面の日はさやかなり
- 11 はつ雪やさらにつもりもあへざらん
- 12 見るくそよくれ竹の露
- 13 よせ来ぬる浪すさましき岸づたひ
- 14 船さしのぼる月の川づら
- 15 刈はこぶ山柴人の袖くれて
- 16 あれたる庵はそのまゝのかげ
- 17 いづくにもこゝろをとめぬ住どころ
- 18 おもひとるよりうき身とぞしる
- 19 さだむるもすゑはとげざるえにしにて

御

杉

- 実顕朝臣
時直朝臣
勢与
- 杉
- 実顕朝臣
時直朝臣
勢与
- 貞里
- 宗岩
- 了俱
- 紹由
- 慶純
- 玄陳
- 昌儼
- 主種
- 経昌
- 勢与

- 20 たよりもあらぬちぎりかひなき
- 21 つかひさへよそにうつろふ花の春
- 22 しゐて雨にもをくる藤がえ
- 23 暮て行弥生のかぎりおしまれて
- 24 くむさかづきによめることの葉
- 25 すゑをなをたのむ心の賀のいはひ
- 26 時をえつゝも世につかへ人
- 27 いどむ碁をたのしみとせし山がくれ
- 28 とひすてかへる小野のかたはら
- 29 つれぐはいとゞそひぬる雪のくれ
- 30 雲のゆくゑのかねかすかなり
- 31 いづこをか旅のやどりとかりねせん
- 32 月にこゝろぞうかれ来にける
- 33 身にしめて思ふがたをたづねより
- 34 ことづてゝやる露のたまづさ
- 35 あはれいまもよほされぬる雁なきて
- 36 春のながめやすみよしのうら
- 37 咲花に浪の花さへ散まじり
- 38 梅のにほひもうかぶうき草
- 39 しはしたゞ駒ひきつなぐやすらひに
- 40 木こりの友や跡先になる
- 41 笛の音はへだゝれるかの岡つゞき
- 42 冬はいつしかたちとかへなく
- 43 風のいろははつかに落残り
- 44 入日は秋のしぐれせし空

杉

- 宗岩
- 時直朝臣
- 勢与
- 紹由
- 経昌
- 主種
- 実顕朝臣
- 杉
- 昌儼
- 紹由
- 玄陳
- 宗岩
- 時直朝臣
- 慶純
- 昌儼

- 45 村雲も月出てよりきえつくし
了俱 杉
- 46 よひのほたるはいづちにけん
勢与 経昌
- 47 あけながらまなびの窓に枕して
紹由 主種
- 48 こゝろまどひにおもひつかるゝ
君来ずはゆきてとはんもいかならん
うらみはてつる中はくやしも
うきことにしのばゝ本意を遂つべし
法にいのちをかへてひろめし
仏にしむまれあはむを我たのみ
かねのみたけをわけのぼる也
紀の海の底にしづめる空の月
関ふきこえてあくる秋風
杉むらの霧や雲に音すらん
さびしさいかにおくのふる宮
高樓のうへに鳩なき日は落て
雨たえゝにそゝく山かげ
岩がねの水も雪もとけわたり
苔の色さへひとしほの春
むろの戸に霞のころもやつしきて
あけくれかゝげなるゝともし火
うらかたをつたふる程はやすからず
かしこきやごと家もつぐらん
さだめあるすくせにあまるくらゐにて
いもぬするらし氏の神塙
たえにたる祭をおこし又つとめ
- 49 了俱
- 50 杉
- 51 了俱
- 52 時直朝臣
- 53 宗岩
- 54 経昌
- 55 杉
- 56 慶純
- 57 玄陳
- 58 杉
- 59 実顕朝臣
- 60 主種
- 61 紹由
- 62 勢与
- 63 昌儼
- 64 紹由
- 65 宗岩
- 66 勢与
- 67 玄陳
- 68 玄陳
- 69 玄陳
- 70 おさまる国のつかさしるしも
慶純 昌儼
- 71 山住に年へし人の世に出て
夜は明星を見とげはてぬる
たゞよふや月近き間の沖津船
秋のうらはの雲ぞ晴行
朝ぼらけ霧をしたなる淡路島
とびたつばさはるかにぞなる
花にくる袖はみどりの洞のまへ
小車つらふみちの長閑けさ
古鳥屋もつぎ尾の鷹もととかひて
杖をたづさふ人もありけり
おひさきやなを思ひ子にいさむらん
となりもとめて住ぞかへたる
朝ゆふにくみしる水の心ざし
木の実をひろひあそぶ様ぐ
秋ははた手がひの猿のこゑわびし
戸ざしの内も夜さむそふころ
月にしも巻返しうつから衣
こゝろいられやとふをまつ程
わがまへをわたりは過ぬちぎりにて
おもかげをほのみえしま江の船
あぐる火のけぶりは空にむすぼゝれ
蚊のこゑいかにくるゝあしの屋
五月雨のはれまみせてはかきくもり
うへもつくさぬ小田のかたぐ
- 72 了俱
- 73 実顕朝臣
- 74 主種
- 75 紹由
- 76 時直朝臣
- 77 宗岩
- 78 了俱
- 79 杉
- 80 宗岩
- 81 勢与
- 82 紹由
- 83 主種
- 84 杉
- 85 紹由
- 86 玄陳
- 87 時直朝臣
- 88 実顕朝臣
- 89 昌儼
- 90 了俱
- 91 慶純
- 92 勢与
- 93 勢与
- 94 時直朝臣

95 花の木も柳にまじる巷にて
 96 あまた人來といとふ鶯
 97 霞消「え」や「こ」あけ初る谷がくれ
 98 とをきながれの音のみぞする
 99 たづねゆくすゑやなこそその渾ならん
 100 さすがなりけりひろき池水

杉
 実顕朝臣

御 一句
 杉 十五句
 実顕朝臣 八
 時直朝臣 八
 勢与 九
 経昌 八
 圭種 八
 昌儼 七

玄陳 六
 慶純 七
 紹由 八
 了俱 六
 宗岩 七
 貞里 一